

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

神奈川県 南足柄市

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	84.60	98.11	1,566	

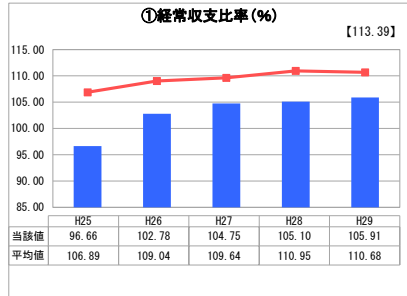
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
43,125	77.12	559.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
42,127	19.05	2,211.39

**グラフ凡例**

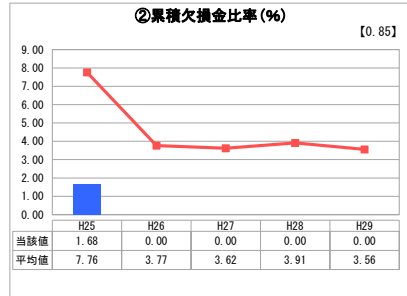
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

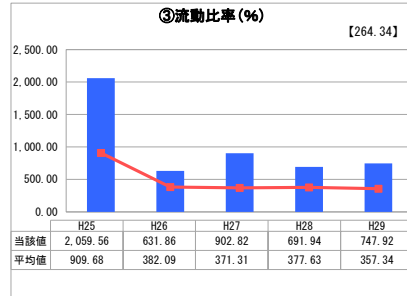
## 1. 経営の健全性・効率性



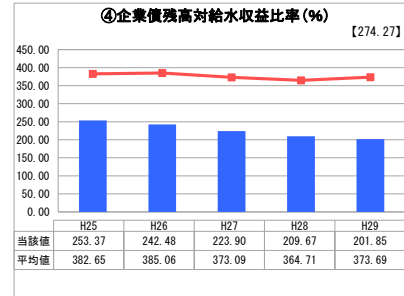
「経常損益」



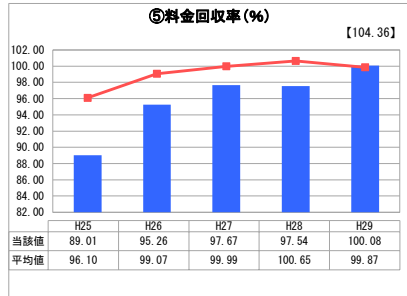
「累積欠損」



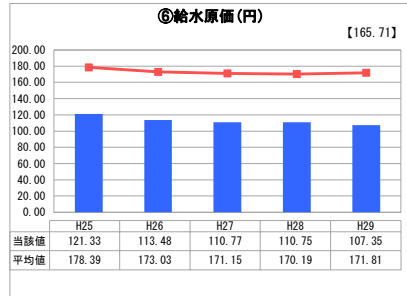
「支払能力」



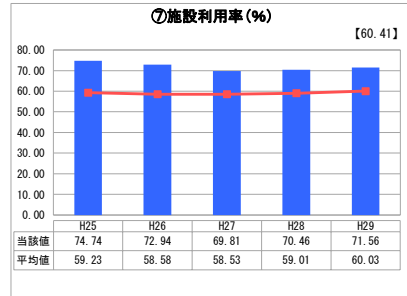
「債務残高」



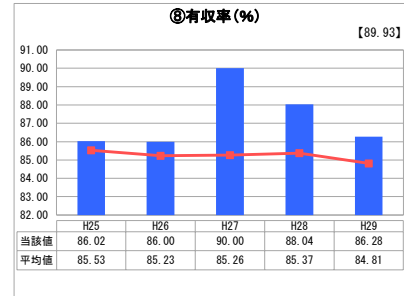
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

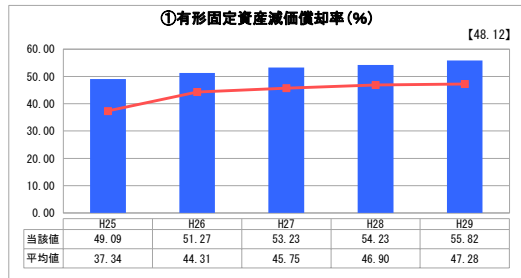


「施設の効率性」

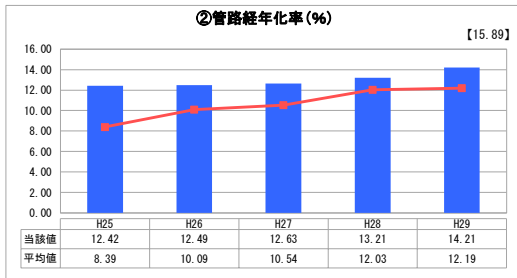


「供給した配水量の効率性」

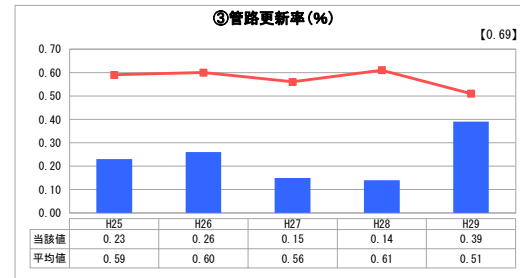
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①及び② 経常収支比率は、ここ数年100%以上で推移しており、累積欠損金がない状態は比較的安定した経営状態であると言えます。
- ③及び④ 流動比率が高く、短期的な債務に対する支払能力も十分にあり、企業債残高対給水収益比率も類似団体に比べて低い水準にあるため、資金的には比較的余裕がある状態です。
- ⑤ 料金回収率はわずかに100%を超え、給水に係る費用が給水収益で賄えている状況となりましたが、近年の全国的な水需要減少の状況や本市の決算の状況から、今後給水収益の減少が予測されるため、厳しい経営状況で推移していくことが予想されます。
- ⑥ 給水原価が類似団体平均値よりも低いのは、本市が表流水と地下水の両方を水源として利用していることや、立地条件によるものと考えられます。
- ⑦ 配水能力に対する配水量の割合を示す施設利用率は、比較的高い比率となっており、水道施設を有効に活用していると思われる。
- ⑧ 有収率は、漏水対策を講じた平成27年度をピークに減少傾向となっているため、漏水等を未然に防ぐための定期的な対策が必要と考えます。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 資産の老朽化度を示す有形固定資産減価償却率について、本市は償却期間が短い機械類の資産を比較的多く保有しているため、平均値よりもやや高い比率となっています。
- ②及び③ 管路経年率は高い水準で推移しており、管路の老朽化が進んでいます。一方で、管路更新率は、平成29年度は上昇したものの、まだ低い水準となっているため、必要な管路の更新が進んでいない状況と言えます。計画に基づき継続して投資を行い、更新率向上に努めていく必要があります。

## 全体総括

本市の水道ビジョンにおける財政推計では、近年の全国的な水需要の状況などから給水収益の減少が見込まれる一方で、昭和35年供用開始以降、老朽化している管路の更新が必要となっている状況であるため、現行の水道料金では、近い将来、経営が厳しくなることが予測されています。こうした状況の中、確実な老朽化対策を実施するための財源確保が求められています。経営基盤の強化を図るとともに留保資金の活用はもとより、将来負担の平準化を考慮した企業債の活用による、計画的な設備投資が必要です。健全な経営状態を維持していくため、財政状況を把握し、今後適切な時期に水道料金の改定ができるよう、慎重に検討を進めていきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。